

平成 29 年 1 月 24 日

平成 28 年度第 4 回 IR 実務担当者連絡会の開催について（第 2 報）

大学評価コンソーシアム

1. 開催の主旨

IR 実務担当者連絡会は、IR や評価など高等教育機関における現状把握・現状分析に携わる実務担当者が集い、事例紹介と議論を通じて評価および IR における実践知の整理と体系化に向けた「経験値」の積み上げを図ることをねらいとして企画しています。評価や IR 業務では、学内の核心に迫る内容であるなどの理由で取り扱いに注意しなくてはならない情報が多く、「ありのまま」の事例を大々的に報告することが難しい状況にあります。そのため、本連絡会では参加人数を限定した上で、資料を配付せずプロジェクターで示すのみの報告や、架空のデータを用いた報告も受け付けています。

本連絡会は年 4 回の開催を計画しており、今年度最終回となる第 4 回は、佐賀大学本庄キャンパスで開催いたします。まず、報告希望者を募り、その後、参加者を募集します。今回の連絡会では、3 ないし 4 件の事例報告と、それに対する質疑応答、総合討論を行います。本連絡会の特長として、質疑応答は質問・感想票を用いて行い、参加者からのすべての質問に回答できるよう、質疑応答の時間を比較的長く設定しています。これまで毎回多くの質問が寄せられており、質疑応答で制限時間いっぱいになってしまうことが多かったことを踏まえ、これまでの連絡会で比較的多く寄せられたご質問とその回答についてはコンパクトにまとめて報告します。

なお、本連絡会で報告された事例は、参加者だけで共有するには「勿体ない」レベルのものが多くあります。また、定員を少なくして実施する会であるため、参加登録開始後、すぐに定員に達してしまい、ご希望いただいても参加いただけない状況にあります。そこで、各報告者には、本連絡会での議論の結果を踏まえ、学内の事情が許す範囲で情報誌「大学評価と IR」へ投稿していただき、参加いただけなかった方を含め、我が国の評価や IR の担当者や関係者と情報を共有していけるようお願いいたします。

2. 日時・会場

平成 29 年 2 月 27 日（月）13:00–17:00

佐賀大学本庄キャンパス 教養教育 2 号館 215 教室（地図の 7 番）

<http://www.saga-u.ac.jp/gaiyol/campusmap/index.html>

※正門そば、美術館向かいの建物です。（佐賀市本庄町 1 番地）

3. 対象者

IR（現状把握・現状分析）に興味があり大学評価や学務、経営企画等に関連する調査などに従事したことがある教職員や IR に関する実践事例などに興味がある方。

4. 定員

スタッフ込み35名程度

5. 参加費

徴収しません。

6. 注意

- ・「ここだけの話」的な雰囲気の確保のため、**録音、撮影はご遠慮ください。**
- ・運営スタッフが録音、撮影を行います。録音は報告者への提供用です。撮影した画像は報告用 web ページの素材として小さくトリミングして使います。
- ・原則として要点を記したレジюмеもしくはスライド資料を配布します。

7. タイムテーブル

13:00-13:15 趣旨説明

13:15-13:27 「地球研における科研費申請・採択状況と研究成果の関係の分析」

○押海 圭一（人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 IR 室）

概要：学際研究を推進する研究機関である地球研として、科研費採択率を上げる戦略策定のために、地球研所属員の科研費申請・採択状況（分科・細目）と申請者の論文発表状況（論文数および分野）との関係の分析を行った。その手法および問題点を紹介して議論を行いたい。

13:27-13:45 「教員個別のデータ収集における効率的手法と学内相互理解」

○森 雅生（東京工業大学 情報活用 IR 室）

概要：組織評価や個別評価のために教員の実績情報を収集する際には、収集の効率性を強く問われる。東京工業大学における IR の実践においても、学内の業務データベース（人事、教務、学術リポジトリなど）のデータを活用する方法を採用しているが、この方法には、IR 側（データ収集する側）と教員側（データ集められる側）の相互理解に落とし穴があることがわかった。

13:45-14:02 「教学データのベンチマーキングに関する一考察」

○姉川 恭子（早稲田大学 大学総合研究センター）

概要：早稲田大学における IR の取り組みの一つとして、中長期計画である Waseda Vision 150 に掲げた数値目標を中心に、BI ツールである SAS Visual Analytics を用いて教学データのベンチマーキングを行っている。本発表では、ベンチマーキングのプロセスとその結果の一部を報告する。

14:03-14:20 「質的分析手法を用いた学生支援に関する IR の実践」

○上島 洋佑（金沢大学 国際基幹教育院）

概要：金沢大学では、第3期中期計画・目標の下に、金沢大学憲章にうたう「自学自習」を支える組織的取り組みの方針を意味する学習支援・学生支援に関わる「バックアップ・ポリシー」を策定することを目指してい

る。このポリシー策定に向けて、学生支援部署の教職員を対象にしたインタビュー調査を実施し、この調査データを質的分析手法の一つである修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）を用いて分析し、学習・学生支援の現状等をまとめた報告と今後の提案を行った。本発表では、当該実践のプロセスと結果について紹介したい。

14:20－14:30 「成績不振学生の早期検出のための学生動態モデルの開発状況について」

○ 畠田 敏行（茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門）

概要：茨城大学では、大学教育再生加速プログラムの支援を受け、内部質保証システムの構築を行っている。その一環として、各学部と IE オフィスで、履修指導や生活指導の基礎資料となる学生生活実態調査と成績データの連結分析による学生動態モデルの開発を行っている。今回はこれらの基本的な考え方に加え、現状と課題について報告したい。

14:30－14:50 休憩および質問・感想票記入

14:50－16:55 報告&総合討論

- ・当日の報告件数によって報告＋質疑応答の部の時間を調整します。（途中で休憩を行います）
- ・報告＋質疑応答の部に引き続いて総合討論を行います。その際、質問紙でのご質問もお受けします。

※平成 27 年度第 4 回（平成 28 年 2 月）、平成 28 年度第 1 回（平成 28 年 8 月）の連絡会の質疑応答・総合討論の概要は「主要な質問と回答に関するメモ」として公開していますので、参考にご覧ください。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=irue20160223> （平成 27 年度第 4 回）

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=irue20160808> （平成 28 年度第 1 回）

16:55－17:00 アンケート記入

8. スタッフ（予定）

浅野茂（山形大）、大野賢一（鳥取大）、小湊卓夫（九州大）、畠田敏行（茨城大）、末次剛健志（佐賀大）、関隆宏（新潟大）、土橋慶章（神戸大）、藤井都百（名古屋大）、藤原宏司（山形大）、藤原将人（立命館大）ほか

9. 申し込み方法

参加希望は大学評価コンソーシアムの web サイトにおいて平成 29 年 1 月 26 日（木）13 時から申し込みを開始します。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=member>

10. 問い合わせ先

茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門 畠田 敏行

toshiyuki.shimada.ir@vc.ibaraki.ac.jp

電話：029-228-8252（AP 事業室）

佐賀大学 総務部企画評価課係長（IR 主担当）末次 剛健志

takechin@cc.saga-u.ac.jp

電話：0952-28-8814

1 1. 関連イベントについて

翌日：平成 29 年 2 月 28 日（火） IR 初級人材育成研修会（パイロット版第 2 回）[会場：JR 博多シティ会議室（福岡市）]

1 2. 謝辞等

○ この連絡会の開催にあたり佐賀大学様には、会場のご提供などお世話になります。

○ また、IR 実務担当者連絡会は、以下の資金も利用して開催しています。

・平成 27 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）

「大学の評価・IR 機能の高度化のための実践知の収集・分析とその活用に関する研究」（課題番号：15H03469、研究代表者：畷田敏行）

